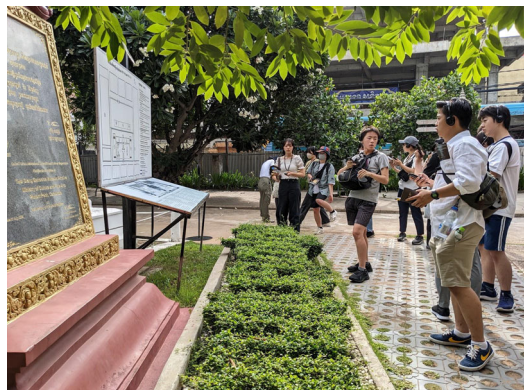


【PBLツアー：カンボジア編】

夏休み企画「PBLツアー特集」の第五弾は、カンボジアです。

カンボジアPBLツアーは、高校生15人と教員2名で実施されました。参加者は、カンボジアの歴史、文化、経済について学び、現地の人々と交流しました。

研修の最初の日には、ポル・ポト政権時代の収容所であるトゥールスレン虐殺博物館を訪れました。この収容所では、約2万人もの人々が殺害されたと言われています。収容所の跡地には、当時の遺物や写真が展示されており、その恐ろしさを体感することができました。



同日、イオンモールで活躍する日本人の店Amazing Cambodiaを訪れました。この店は、カンボジアの雑貨や食品を販売しており、国内外問わず多くの人から人気があります。店主は、カンボジアの文化や人々にとても愛着を持っており、カンボジアに住んで10年以上になる方で、たくさんの貴重なお話を伺うことができました。



研修2日目は、小学校の朝給食風景と支援を求める小学校の調査現場を訪れました。カンボジアでは、貧困のために十分な食事を食べることができない子どもたちがたくさんいます。困っている子どもたちに給食を提供する活動に参加したことで、悲しい現状を目の当たりにし、複雑な表情を浮かべつつも、仲良く子どもたちと過ごす生徒の姿を見ることができました。

3日目は、孤児院を訪れました。この孤児院には、親を亡くした子どもたち、親から虐待を受けていた子どもたち80人が暮らしています。孤児院で生活する彼らと交流する中で、夢を聞いたり、一緒に遊んだりしました。子どもたちは、とても元気で明るく、私たちの訪

間をととても喜んでくれました。「良い出会いだった。」という言葉子どもたちからもらい、「この言葉を大切に過ごしていきたい。」と話す生徒の姿が印象的でした。



また、ナイトマーケットでは、カンボジアの伝統的な衣装やアクセサリー、雑貨など、様々なものを買うことができました。カンボジアの文化を身近に感じることができ、楽しい思い出となったことでしょう。

4日目は、アンコールワット遺跡を訪れました。アンコールワットは、世界遺産に登録されているカンボジアの代表的な遺跡です。遺跡を見学し、その歴史と文化について学びました。



カンボジア滞在中には、カンボジアの子どもたちと交流する機会が多くありました。私たちの質問に答えてくれたり、歌を歌ってくれたりした明るく元気な彼らの周りには、悲しい現状があることも知ることができ、生徒たちは、カンボジアの子どもたちから多くのことを学ぶことができました。カンボジアの歴史、文化、経済について学ぶだけでなく、現地の人々と交流し、その温かさやたくましさを感じたことで、生徒たちにとって貴重でかけがいのない経験となりました。

